

平成30年度 「ふれあい地域懇談会」報告書

＜ 深 沢 地 域 ＞

日 時	平成30年7月19日（木） 午前10時～正午
場 所	深沢学習センター 第2集会室
出 席 者	自治・町内会代表 25団体：25名 地域団体代表 3団体：3名 計28名 鎌倉市 8名
内 容	<p>第 1 部 市長からの報告..... P. 1 「持続可能な都市『鎌倉』を目指して」</p> <p>第 2 部 地域の懸案事項に関する報告..... P. 21 ① 市道の整備等について ② 山崎子どもの広場廃止に伴う代替地について ③ 100歳になる方の名簿の提供の可否について ④ 深沢地区の治水事業について</p> <p>第 3 部 本年度の地域の議題に関する懇談..... P. 25 ① JR跡地へ市役所移転と今後のまちづくりについて ② 新ごみ焼却場建設について ③ 野村研究所跡地利用（橋の修繕等も含む）について ④ 市営住宅の統合について ⑤ 防災無線の振り込め詐欺防止放送の利用について ⑥ 鎌倉市支所機能の集約について ⑦ その他</p> <p>付 録 当日配布資料..... P. 47</p>

出席者名簿 (敬称略)

【自治会・町内会等】

	団 体 名	氏 名	備 考
1	梶原町内会	石井 晶正	会長
2	梶原山町内会	加藤 洋	会長
3	大峯自治会	宇佐美 雅章	
4	いづみ自治会	石原 俊一	会長
5	寺分町内会	岩壁 勇	会長
6	大平山丸山町内会	金川 幾夫	会長
7	西寺分自治会	矢沢 英夫	会長
8	大船ダイヤハイツ管理組合	高橋 範雄	
9	山崎町内会	高井 久雄	会長
10	レーベンスガルテン山崎自治会	赤井 武彦	会長
11	ダイヤハイツ鎌倉自治会	阿部 勝	会長
12	笛田町内会	田島 重雄	会長
13	笛田東芝町内会	徳増 多美子	
14	琵琶苑自治会	森田 和夫	会長
15	打越町内会	山田 洋美	会長
16	鎌倉山萩郷自治会	嶋田 鉄己	会長
17	鎌倉山若松自治会	村雨 修一	会長
18	常盤町内会	矢澤 基一	会長 (司会)
19	住友常盤自治会	沼野 輝彦	会長
20	湘南常盤マンション管理組合	大島 定太郎	会長
21	湘南深沢マンション管理組合	関 喜正	
22	鎌倉うぐいす山自治会	阿部 久	会長
23	山崎西町内会	檜山 宏	会長
24	フォーム鎌倉常盤管理組合	辻田 聰	会長
25	L・クオーレ湘南深沢自治会	阿部 榮次郎	

【その他の団体等】

	団 体 名	氏 名	備 考
1	深沢地区社会福祉協議会	加藤 晃	
2	第5地区民生児童委員協議会	山崎 博夫	
3	第6地区民生児童委員協議会	宮田 進	

【鎌倉市】

	役 職	氏 名	備 考
1	鎌倉市長	松尾 崇	
2	共創計画部長	比留間 彰	
3	行政経営部長	齋藤 和徳	
4	防災安全部長	柿崎 雅之	
5	環境部長	石井 康則	
6	まちづくり計画部長	前田 信義	
7	都市整備部長	樋田 浩一	
8	深沢支所長	下平 和彦	

第1部 市長からの報告

【全地域共通】

平成30年度ふれあい地域懇談会 第1部市長からの報告



持続可能な都市『鎌倉』を目指して

鎌倉市長 松尾 崇

Takashi Matsuo Mayor of Kamakura

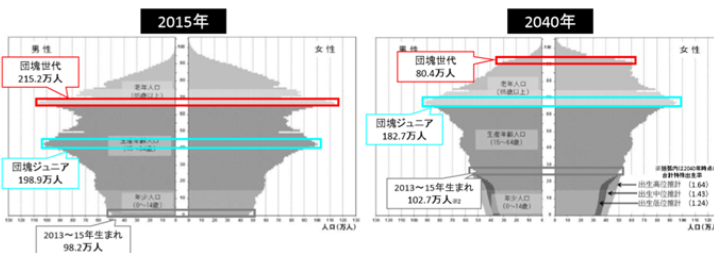
第32次 地方制度調査会

地方の行財政制度を検討する首相の諮問機関、第32次地方制度調査会が7月5日初会合を開いた。人口減の中、高齢化がピークを迎える2040年頃の自治体の姿を描き、必要な法整備を2年間かけて議論する。

安倍首相のコメント

「急速な少子高齢化、深刻な人口減少により歴史上、経験したことのない事態に直面する。具体的な解決策を幅広く検討いただきたい。」

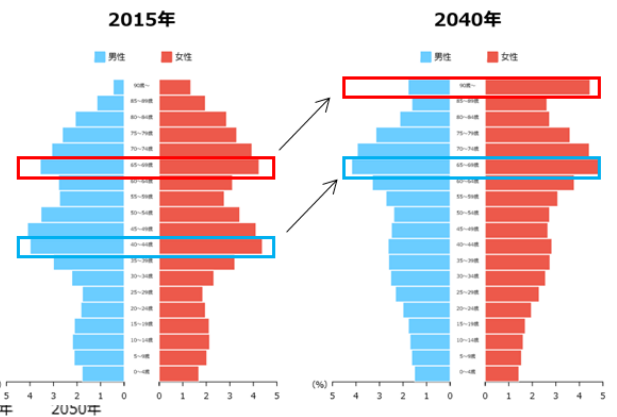
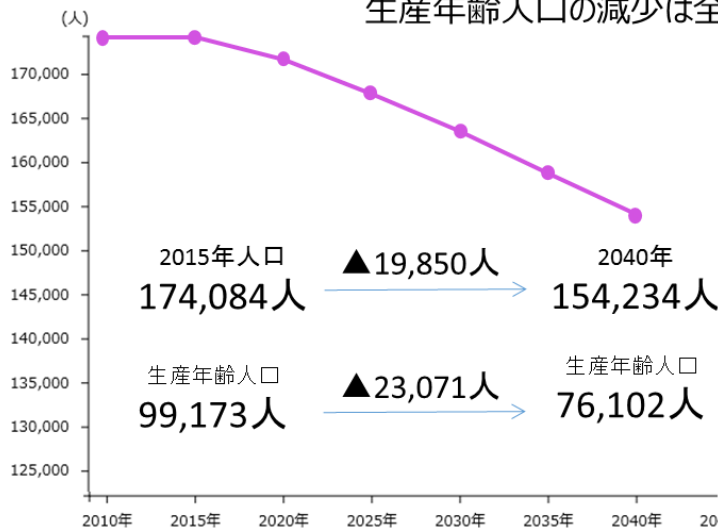
15歳～64歳の働き手世代が 現在の7558万人から40年には5978万人と激減



	出生数	2015年※1	2040年※1
団塊の世代 1947～49年生まれ	267.9万人 ～269.7万人	215.2万人 66～68歳	80.4万人 91～93歳
団塊ジュニア 1971～74年生まれ	200.1万人 ～209.2万人	198.9万人 41～44歳	182.7万人 66～69歳
【参考】 2013～15年生まれ	100.4万人 ～103.0万人	98.2万人 0～2歳	102.7万人※2 25～27歳

鎌倉市に目を向けると

人口は19,850人（11.4%）減少
 生産年齢人口は、23,071人（23.2%）減少
 生産年齢人口の減少は全国平均の20.9%よりも2.3%高い



鎌倉市が取り組むべき課題

急激な人口減少・少子高齢化の進行は、税収減・社会保障費の増につながる。この様な環境下において様々な課題にどう対応し、持続可能なまちづくりを進めるか。従来のシステムを根本から変えなくてはならない。

- 災害対策（地震・津波・異常気象など）
震度6弱以上の地震が30年以内に来る確立82%（横浜市）：政府地震調査委員会
- 一斉に老朽化する公共施設・インフラの維持管理
- 年間約2,000万人（入込観光客数）の観光客と慢性的な渋滞対策
- 高齢化進行が著しい住宅地の再生（安全安心・コミュニティ再生）

市民の暮らしを守る 「住みたい・住み続けたいまち」をつくる

鎌倉市政の抱える課題（社会インフラの維持管理）



稲村ガ崎の崖の崩落により
下水道管が破損

鎌倉市政の抱える課題（社会インフラの維持管理）



岩瀬隧道内の上部の一部が崩落

鎌倉市政の抱える課題（社会インフラの維持管理）



第一中学校への通学路脇の崖で落石が発生

鎌倉市政の抱える課題（社会インフラの維持管理）

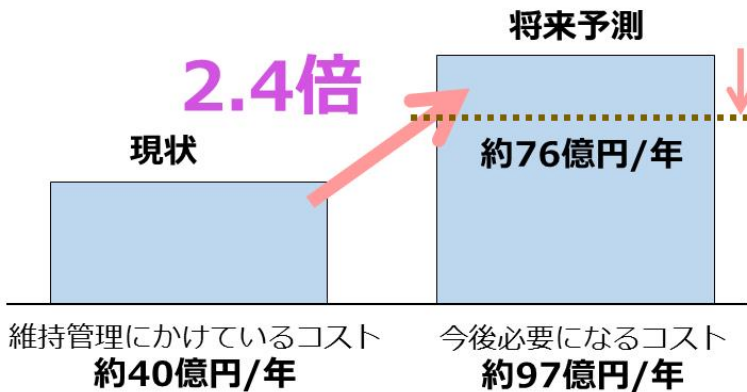
社会インフラの維持管理に必要となる経費は、**年間約97億円**。

現状の約40億円の**2.4倍**となる。

公共施設のように削減することができない。

鎌倉市社会基盤施設マネジメント計画

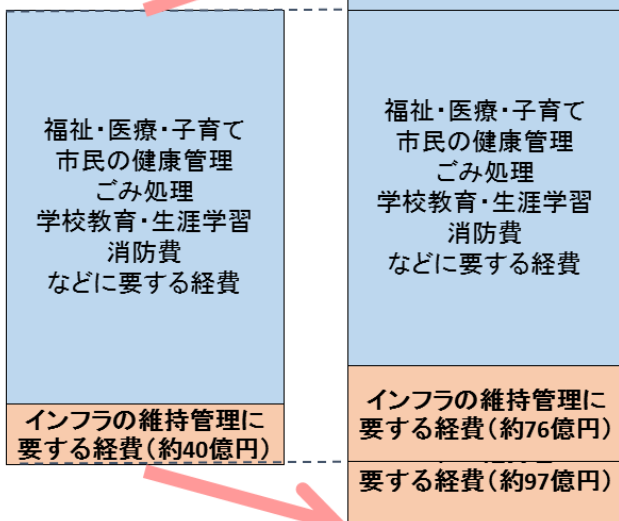
- ・ 管理水準の適正化
- ・ 予防保全型管理方式への転換
- ・ 民間の力を活用したコスト削減
- ・ 適正負担（受益者負担）の見直し
- ・ 災害時の事業継続の視点



鎌倉市政の抱える課題（社会インフラの維持管理）

現 状

将来予測



社会保障費などの増加
(さらに人口減少による歳入減)



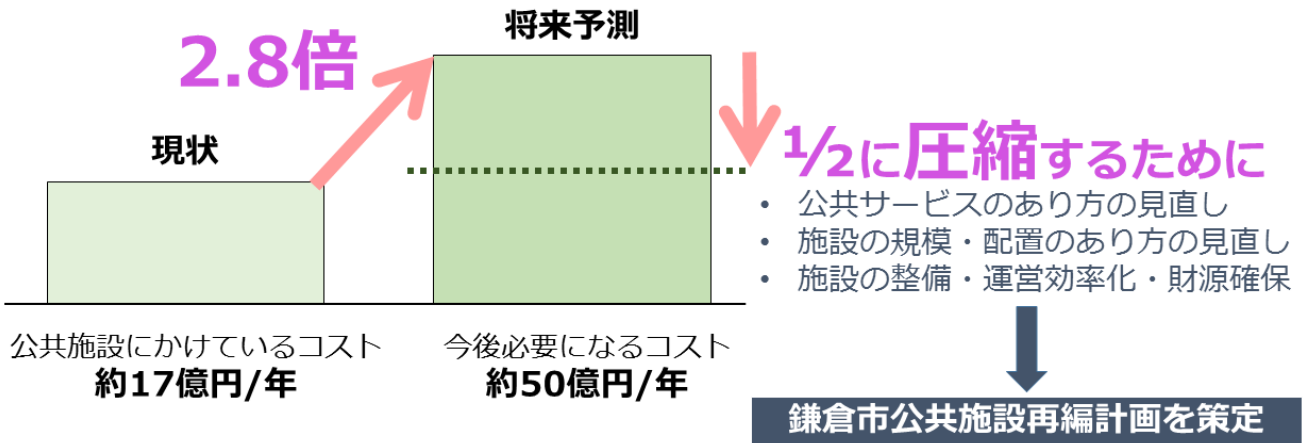
既存事業の見直し
公共施設の維持管理コストの削減



インフラの維持管理に要する経費
の増加

鎌倉市政の抱える課題（公共施設の再編）

老朽化が進む公共施設の維持管理に必要となる経費は、年間約50億円。
現状の約17億円の2.8倍となる。



鎌倉市政の抱える課題（公共施設の再編）

市民の生命を守る災害対策（市役所本庁舎の整備）

建築から約50年

建物・設備の老朽化が進行

災害への備え

最低限の耐震強度はあるものの
防災拠点としての機能強化が必要

スペース不足

執務室の分散により、業務効率
市民サービスが低下

市民参画で検討を重ねる（h28～）



鎌倉市政の抱える課題（公共施設の再編）

◆ 建設コスト規模の比較（イメージ）

コストメリットが
最大の整備手法

現在地建替え

その他の主なコスト

現在地長寿命化

その他の主なコスト

移転

180億円は、必要な面積に近年の建設コストを乗じた数値
3.6億円 庁舎のコンパクト化や民間活力の導入に積極的に取り組み
整備コストを圧縮（税の投入を極力減らす）

約194億円

（現在地と別敷地合算）

約207億円

（現在地と別敷地合算）

約180億円

跡地の利活用による
さらなる効果

床面積不足による分散化
分散による施工単価増
仮移転によるコスト増

床面積不足による分散化
分散による施工単価増
仮移転によるコスト増
耐震改修による施工単価増

鎌倉市政の抱える課題（公共施設の再編）

移転場所を深沢地域整備事業用地に決定

現在地

駅前の便利な場所

市民・来訪者にとって快適で魅力的な場をつくる

市民に必要な窓口機能を残し
図書館・ホール等の機能を導入



津波避難ビル
としても機能

鎌倉の価値を
高める
相乗効果



移転先

新しいまちづくりが進む場所
災害に強く、市民が生き生きと健康に暮らせるまちをつくる

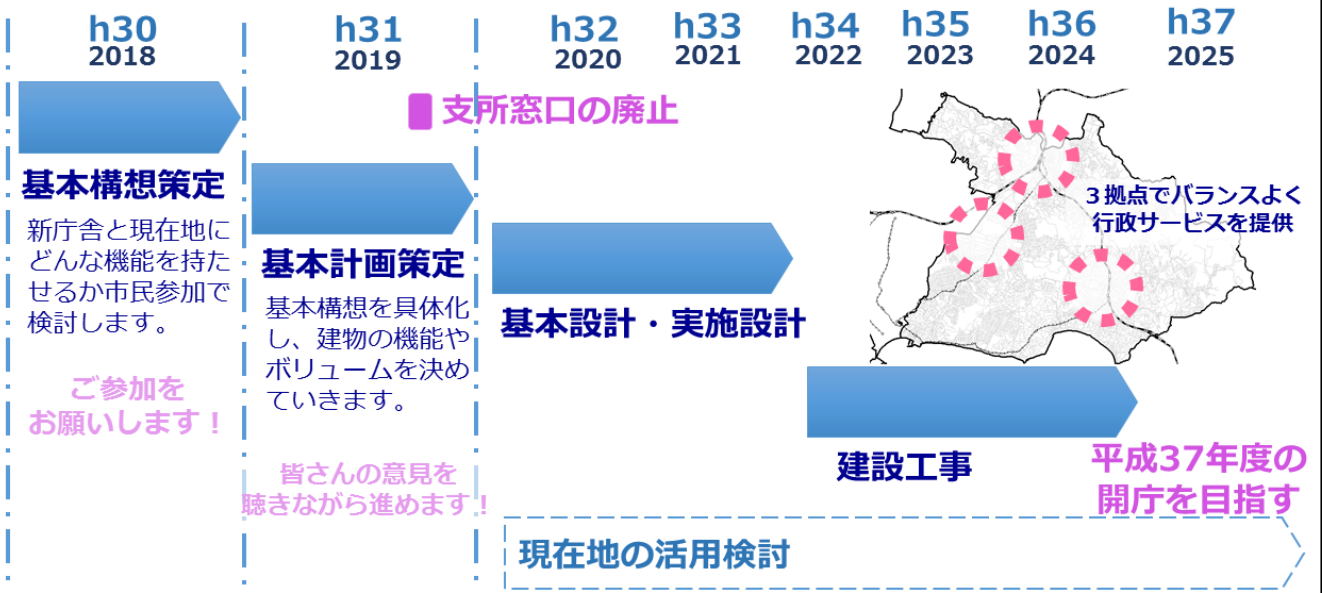
消防本部等との合築により
防災・健康等の価値創造



13

鎌倉市政の抱える課題（公共施設の再編）

今後のスケジュール



鎌倉市政の抱える課題（公共施設の再編）

移転場所を深沢地域整備事業用地に決定

現在地

駅前
の便利な場所
市民・来訪者にとって快適で魅力的な場をつくる

市民に必要な窓口機能を残し
図書館・ホール等の機能を導入



窓口がなくなり不便になるのは困る

現在、本庁舎の1階にある市民サービスのための窓口は、残ります。ICTの活用やコンシェルジュ機能の導入により、利便性の向上に配慮します。

災害時にどうすればよいのか

これまで同様、災害時の支援機能は維持します（この場所に、職員も残ります。）。また、津波避難ビルとしての機能を持たせます。

「民間活力」といって商業施設になっては困る

まずは、周辺の公共施設（学習センター・図書館など）を集約し、市民が集える場所とします。さらに多機能を導入し、市民・来訪者にとって快適で魅力的な場をつくります。今後、皆さんとともに考えていきます。

例えば…このような場所(シリウス：大和)をイメージしています



大和市文化創造拠点シリウス
(大和駅から徒歩3分の場所にあります)

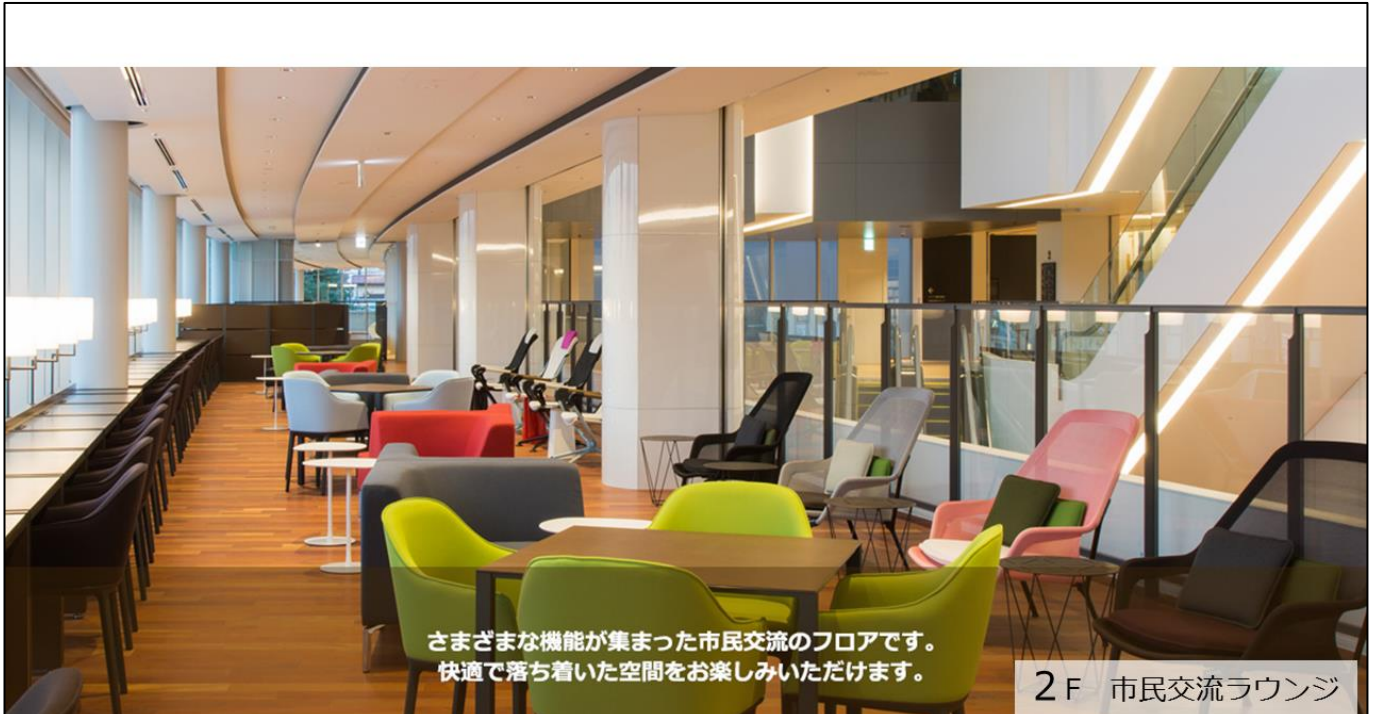


1F エントランス
1F~5Fの各フロアに図書館があります



2つのホールとギャラリーを備えるフロアです。トップアーティストによる公演や展覧会など、身近に芸術文化に触れる機会を提供します。また、市民のみなさまの手による文化活動の発表の場としてもご利用いただけます。

メインホール。1Fには、サブホールやギャラリーもあります。



さまざまな機能が集まった市民交流のフロアです。快適で落ち着いた空間をお楽しみいただけます。

2F 市民交流ラウンジ

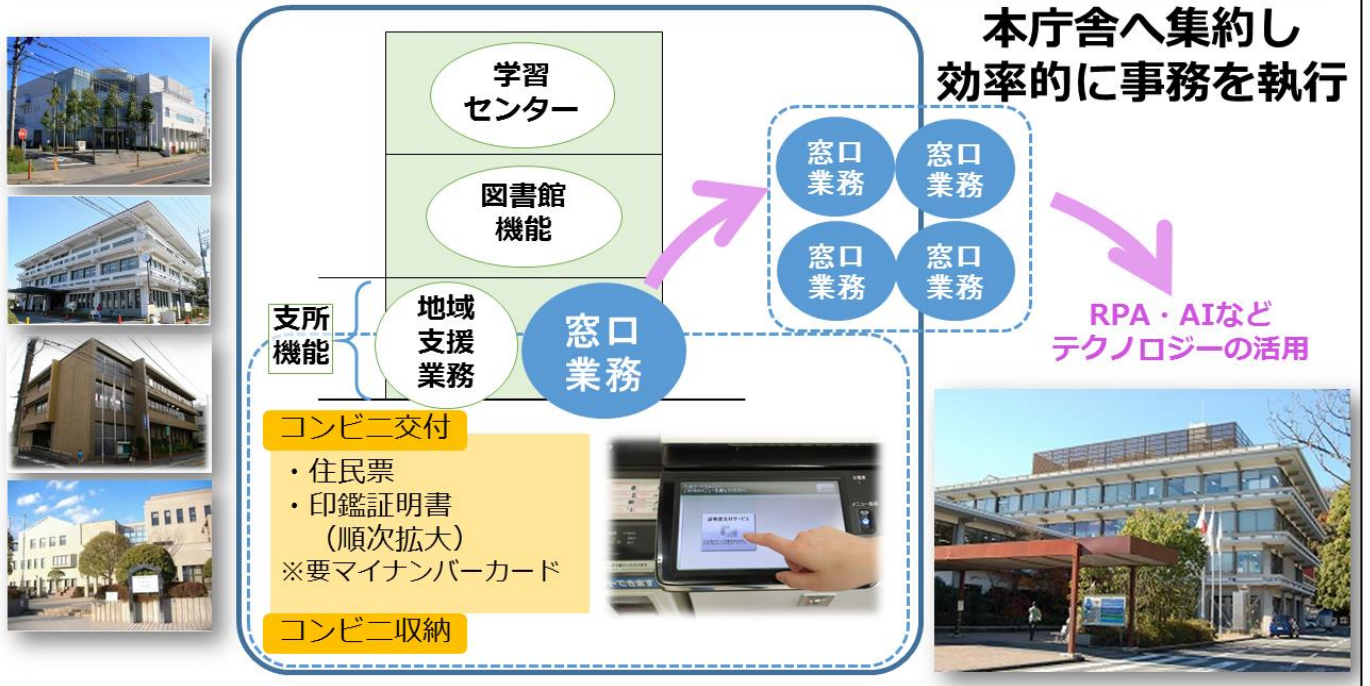




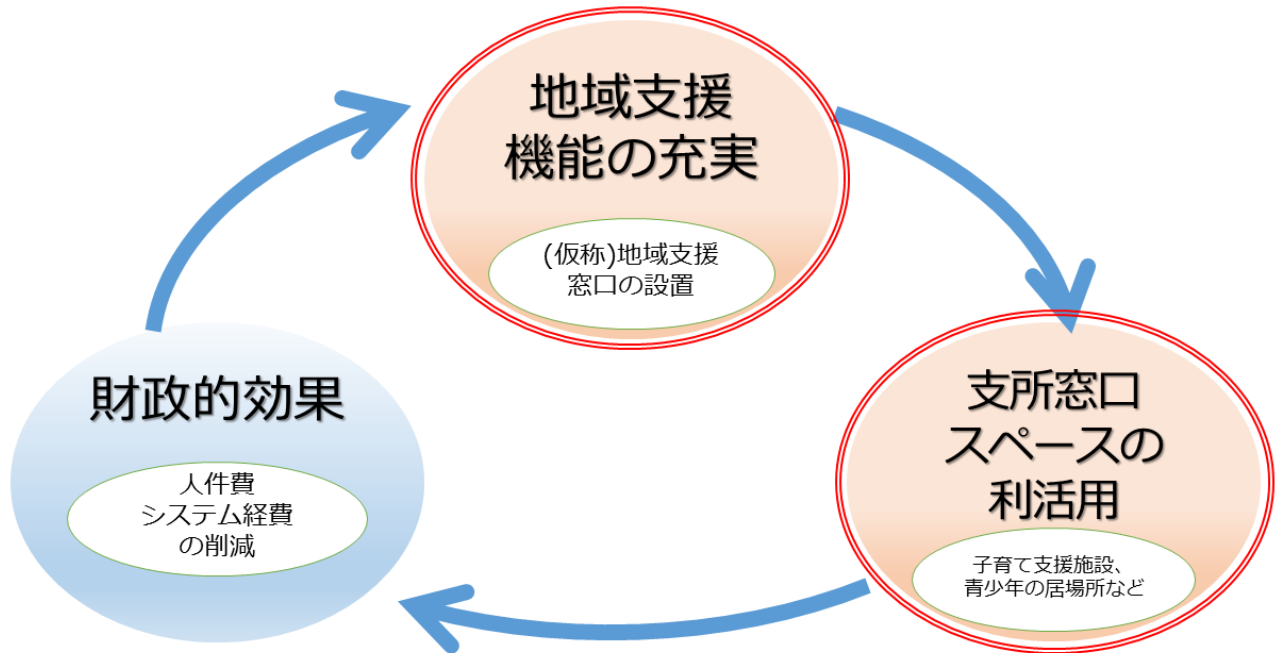


6 Fには、市民交流スペースがあります

鎌倉市政の抱える課題（公共施設の再編計画）



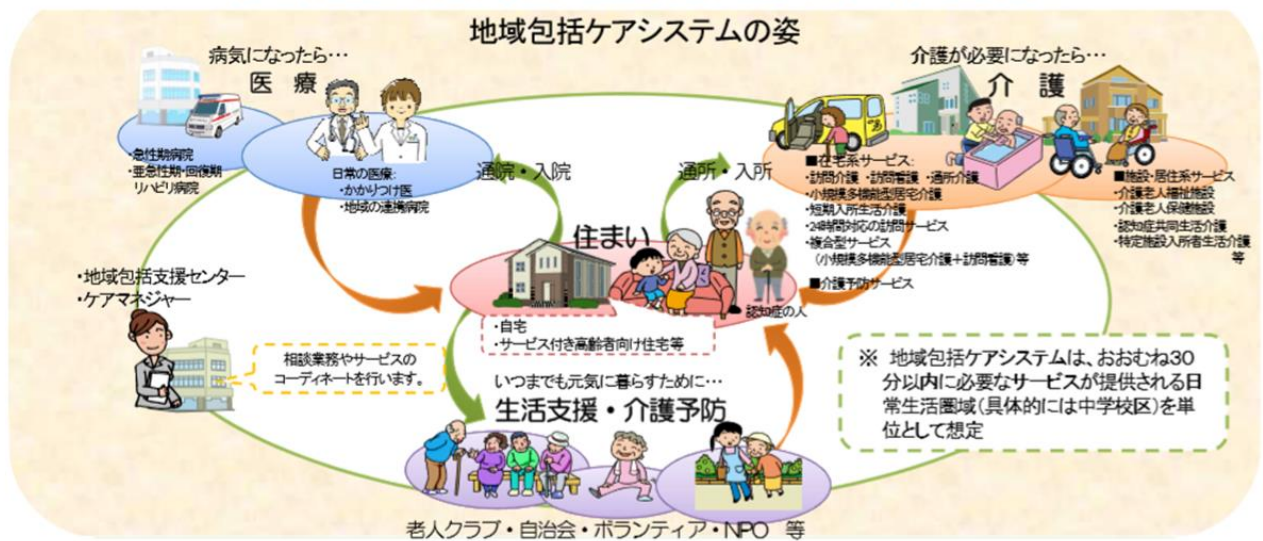
鎌倉市政の抱える課題（支所業務のあり方）



鎌倉市政の抱える課題（住み慣れた地域で生活するために）

『住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるまち』をつくる

地域で医療・介護・予防・生活支援・住まいを一体的に提供



鎌倉市政の抱える課題（住み慣れた地域で生活するために）

産学官民の連携により「地域で地域の課題」を解決する、まちをマネジメントしていく仕組みをつくる

鎌倉リビングラボの全市展開



鎌倉市政の抱える課題（渋滞対策）

現状：鎌倉の観光拠点である鎌倉地域は、休日を中心に著しい交通渋滞が発生

これまでの取組

- 鎌倉市交通計画研究会(平成8年度設置)
 - ・市民、学識経験者、交通事業者、関係行政機関等で構成し、地域の交通問題の改善に係る20の施策を提案し、実施可能なものから順次実施
- パークアンドライド(平成13年度より実施)
 - ・鎌倉地域周辺の所定駐車場(4箇所)で公共交通機関(江ノ電、シャトルバスなど)への乗り換えを実施(利用促進策として協賛店での料金の割引やサービスを実施)
- 鎌倉フリー環境手形(平成13年度より実施)
 - ・鎌倉地域の主要観光地をカバーする5路線のバスと江ノ電の鎌倉駅～長谷駅間が1日乗降自由になる切符を販売(利用促進策として協賛店や神社等で割引等を実施)

⇒ 抜本的な交通渋滞の解消は出来ていない



課金により流入交通量をコントロールする**ロードプライシング**を検討

鎌倉市政の抱える課題（渋滞対策）

・課金の方向性

課金の方向性について、特別委員会では、次のとおり、基本的な事項をとりまとめました。

項目	内容
①対象エリア	国道134号を除く鎌倉地域とする。
②対象日	全ての土日祝日等(年間120日程度)とする。
③課金時間	8時から16時までを基本とする。
④課金単位	1回ごとに課金(課金箇所に流入1回につき課金)する。
⑤課金対象	鎌倉地域に流入する全ての自動車、二輪車とする。 (緊急車両、福祉車両、障がい者等の車両、路線バス、タクシー、宅配車両、市内に事業所や店舗等がある業務車両は除く。)
⑥課金パターン	市外からの流入車両を1とした場合、市民の負担割合は0~0.1程度とする
⑦課金の使途	システムの運営・管理費、公共交通への転換方策等に充てる

これらの条件を基に法制度面等と併せて、検討を進めています。

鎌倉市政の抱える課題（渋滞対策）

今後の予定

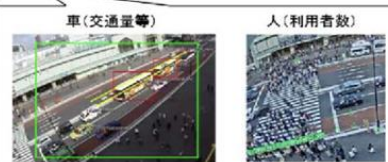
- ・「第3次鎌倉市総合計画第3期基本計画後期実施計画（H29~H31）」に基づき、自動車利用の抑制策等を踏まえた交通シミュレーションを実施し、平成31年度に本市で「(仮称)鎌倉ロードプライシング」の社会実験を実施する予定です。
- ・平成29年9月に国土交通省の「観光交通イノベーション地域」に鎌倉市が選定されました。現在、ICT、AI等の技術を活用し、エリアプライシングを含むエリア観光渋滞対策のためのデータを収集しています。

(仮称) 鎌倉ロードプライシングの概要とシステムイメージ



AIカメラ

AIによる画像処理で交通量調査、自動車起終点調査をIT化



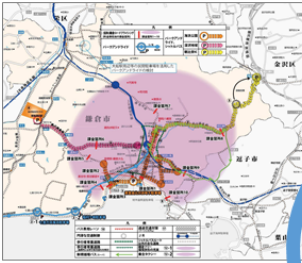
ETC2.0による通信



ETC2.0車載器と路側機との通信により、プローブ情報(位置、速度、急ブレーキ、経路等)を収集

鎌倉市政の抱える課題（渋滞対策）

課金による渋滞解消
課金による財源確保



環境保全

通過交通の排除・渋滞解消により
CO2削減

ロードプライシングの実施コストの他

魅力的な空間創出（歩道・ポケットパーク・サイクリングロードなど）

舗装や交差点改良・交通案内の充実（ICTの活用など）

鎌倉の歴史・文化遺産の継承・活用

まち並みの美観向上・緑化促進

市民・来訪者（負担者）ともに快適なまちへ

歩いて楽しいまち
コミュニティの向上
消費拡大・地域産業の活性化

地域活性化

公共交通による移動快適
緊急自動車等のスムーズな運行

安全・安心

鎌倉市政の抱える課題（健康づくり）

市民の健康づくり活動を支援し、
生活習慣の改善や健康寿命の延伸
を図る

- 健康づくりに取り組むことでポイントが貯まり、貯まったポイントで景品が当たる抽選に応募できるサービスを提供し、市民の健康づくりを応援
- 健診結果等の見える化を図ることで生活習慣の改善及び健康寿命の延伸を図る
- 市内企業等と連携した健康経営の推進

歩いて健康！参加してオクト！
かまくらヘルシーポイント

歩いた距離
478.2km
歩いた時間
145分
歩いたペース
12.2km/h

1日の歩数
AVG 0歩
1日の歩数目標 (8,000歩)

ポイント貯まり
478.2km
145分
12.2km/h

チャレンジはもうひとつ！
ポイント数に応じて豪華プレゼントが当たる！

3000ポイント
ローソンでの消費券
1000ポイント
マクドナルドで使える
500ポイント
鎌倉市立図書館で使える

【PickUp】タニタの健康コラム
サプリメントを服用した食生活サポートで病気の予防やストレスや疲れを大きく感じているときには、栄養を...

【新着必読】タニタの健康コラム
健康美人は元気の口元から！
ほうじ茶が気になる方、口元が元気になる方...

タニタの健康コラム
手入が不要！自動でグラフ化
体組成計などの対応機器を使
えば、測定データは自動で
転送！タニタグラフとして
簡単管理できます。

みんなで歩数を競おう
歩数ランキングを競おう
歩いた歩数のみならず、世界の
名所（バーチャルウォーメン
）ランキングを競って楽し
く運動しましょう。

インフォメーション

第1部 市長からの説明に対する意見・質疑

<大船ダイヤハイツ管理組合・高橋氏>

鎌倉市は少子高齢化にどう対処していくのか。深沢の新市庁舎建設では、深沢全体のまちづくり、ひいては日本の都市のモデルとなるようなものを提言してほしい。

<松尾市長>

第三部で詳細を述べるが、深沢は鎌倉のエンジンとなるように考えている。

<打越町内会・山田会長>

インフラの維持管理は費用がかかるが、住民がどのように寄与できるかが重要。道路の維持などは、住民がボランティアで草刈を行うなどの例もあるので、市がお金をかけるだけでなく、住民も意識をもって協力していくことが必要である。道路の草は刈らないでくれと言われているが、住民のボランティアを積極的に活用してはどうか。

<松尾市長>

市の現状を知っていただき、住民の皆さんができることをしてくださることは大変ありがたく重要なことなので、これからもお願いしたい。

<大平山丸山町内会・金川会長>

厚生労働省は、2025年までに地域包括ケアシステムを構築するよう言っている。鎌倉市の進捗状況はどうか。また、支所との関わりについても話していたが良く分からなかったので教えてほしい。

<松尾市長>

地域包括ケアシステムについて、鎌倉はトップランナーではない。全国の自治体の中では、ひとつのエリアがひとつの施設のような捉え方をして、地域に住み続けられるような取り組みをしているところもある。鎌倉も住宅地などでケアシステムのようなものがないか5年近く医師会・看護師会・福祉関係で議論しているが、うまく機能するまでには連携が進んでおらず、できることを進めている段階である。

支所については4つの大きな役割があり、窓口業務だけを廃止する計画で、3つは残る。さらには、地域支援業務については充実をさせていく計画である。

<大平山丸山町内会・金川会長>

鎌倉リビングラボの全市展開は本気で考えているのか。

<松尾市長>

地域の方々が集まり、地域の課題を話し合う場を鎌倉リビングラボと言えるのではないかと考えている。

<大平山丸山町内会・金川会長>

鎌倉リビングラボという名称でなくても、このような取り組みを全市的に展開したいということか。

<松尾市長>

その通りである。

<大船ダイヤハイツ管理組合・高橋氏>

もっと分かりやすい名称の方が良いのでは。

<松尾市長>

親しめる呼び名を地域ごとに使っていただけたら良いと思う。話し合う場があれば良いし、それが難しければ仕組みを作り、話し合いの場を提案して作っていくなどいろいろな方法で取り組んでいきたい。

<大平山丸山町内会・金川会長>

良い取り組みだと思っている。

<鎌倉うぐいす山自治会・阿部会長>

リビングラボをスウェーデン国王が見学に来たことや岩瀬のトンネルの崩落を知らなかった。広報かまくらに載せてはどうか。

<松尾市長>

ホームページには掲載し、新聞にも取り上げられたが、広報かまくらには掲載していなかったので掲載する。

<大峯自治会・宇佐美氏>

地域包括支援センターは発足から日が浅いので、できることからしたら良い。地道に持続的にできることをしてほしい。自治会に頼りたくない人が、医師から地域包括支援センターへの連絡で相談できていた例もあったので必要なものと感じた。

<松尾市長>

地域包括支援センターは現在市内に10箇所あり、福祉の拠点として有効に機能している。自治町内会の方々との連携も大きなポイントになるので、できるところから横の連携も進めていく必要があると考えている。

<山崎町内会・高井会長>

災害時の避難行動要支援者名簿を受け取り、8割の支援プランは作った。要支援者と支援者のマッチングができたのはそのうちの6割で、支援者が要支援者より高齢であるなど、実際に機能するか不安は大きい。鎌倉市では、名簿を受け取った自治会が名簿をどう使っているかについて、特に考慮していないように見えるがいかがか。

<防災安全部・柿崎部長>

名簿配布率は現在7割である。個別支援プランの作成、要支援者と支援者のマッチングが国の最終目標。実際は、各自治町内会のマンパワーの違いにより、そこまで到達できないところが多い状況である。この制度は自治町内会に要支援者を助ける義務を課しているものではなく、例えば災害後、避難所で避難者名簿との突合せができるなど、普段から支援を必要とする方がここにいると認識することが大事で、これだけでも名簿の配布意義があると考えている。

<山崎町内会・高井会長>

今のような話を各地区のリーダーに周知してもらいたい。ごみの有料化・戸別収集については、細かく丁寧な進め方で実際に機能するアプローチがあった。要支援者のお話は、国から来たから回して来たという感じである。各自治町内会は、名簿の使い方にとまどっている。

<防災安全部・柿崎部長>

名簿をお渡しした際に担当課からの説明会を開いたのだが、説明不足だったようだ。私からより丁寧な説明をするよう指示する。

第2部 地域の懸案事項に関する報告 【深沢地域】

平成30年度 ふれあい地域懇談会



深沢地域

- 市道の整備等について
- 山崎子どもの広場廃止に伴う代替地について
- 100歳になる方の名簿の提供の可否について
- 深沢地区の治水事業について（大塚川の新川への分水計画）

市道の整備等について

【都市整備部 作業センター・
道水路管理課】



北野神社の石段の補修
及び手すりの設置



作業センターにおいて
平成30年4月に実施

庚申塚近辺の桜の木



土地を所管する
関東財務局で伐採を実施

山崎子どもの広場廃止に伴う代替地について

【都市整備部 公園課】

鎌倉市

広場の設置について相談

旧鎌倉湘南
総合病院跡
地の地権者

設置には至らず

これまでも情報収集や周辺の土地利用状況を
注視してきましたが代替地の確保は困難な状況

100歳になる方の名簿の提供の可否について

【健康福祉部 高齢者いきいき課】

名簿の提供に当たっては、個人情報保護審査会の審査が必要となります。具体的な手続き等について、直接、高齢者いきいき課とご相談ください。



深沢地区の治水事業について

【都市整備部 下水道河川課】



大塚川の新川への分水計画

深沢地域（手広・笛田地区）の浸水被害の軽減に必須の事業計画

平成30年度

- ・詳細設計
- ・関係権利者と用地取得に向け調整

平成31年度

- ・用地交渉
- ・埋設管移設工事

引き続き、実現に向け積極的に取り組んでまいります。

第2部「地域の懸案事項に関する報告」に対する意見・質疑

質疑応答なし

第3部

本年度の地域の議題に関する懇談

深沢－H30－1	J R跡地へ市役所移転と今後のまちづくりについて
深沢－H30－2	新ごみ焼却場建設について
深沢－H30－3	野村研究所跡地利用（橋の修繕等も含む）について
深沢－H30－4	市営住宅の統合について
深沢－H30－5	防災無線の振り込め詐欺防止放送の利用について
深沢－H30－6	鎌倉市支所機能の集約について
深沢－H30－7	その他（J R引き込み線用地の買収状況、利用計画など）

平成 30 年度ふれあい地域懇談会（第 3 部） 回答票

番 号	深沢－H30－ 1
テ ー マ	JR 跡地へ市役所移転と今後のまちづくりについて
内 容 詳 細	<ul style="list-style-type: none"> ・ JR 跡地に本庁舎移転が正式に決定したと表明されたが、その他の施設（体育館・消防本部・公園）はどうなるのか ・ 土地の半分を占める JR 本体の開発計画との関連はどうなるのか ・ JR はどのような核テナントを持ってくるのか ・ 住宅配置計画等将来人口はどのくらいか ・ 富士塚小の児童増加見込みはどのくらいか
担 当 部 課	行政経営部 公的不動産活用課 まちづくり計画部 深沢地域整備課

議題に対する回答等

【JR 跡地に本庁舎移転が正式に決定したと表明されたが、その他の施設（体育館・消防本部・公園）はどうなるのか】

平成 27 年 3 月に策定した鎌倉市公共施設再編計画において、体育館については、「鎌倉体育館、大船体育館及び鎌倉海浜公園プールを集約し、深沢地域整備事業用地に総合体育館（屋内プール併設）を新設する」とし、消防本部については、「消防救急活動に支障をきたさない配置の検討を踏まえた上で、大船消防署の設備更新の時期に合わせ、大船消防署・消防本部と深沢出張所を統合し、深沢地域整備事業用地に移転する」としています。

また、平成 30 年 3 月に策定した鎌倉市公的不動産利活用推進方針では、深沢地域整備事業用地（行政施設用地）について、「本庁舎の移転先とし、消防本部や総合体育館と一体となったシビックエリアの形成」という利活用の基本方針を定めたところです。（公的不動産活用課）

平成 30 年度は、本庁舎等の整備に関する基本構想の策定を予定しており、今後、本庁舎の整備に関する具体的な検討と併せて、消防本部及び総合体育館の一体的な整備についても検討を進めてまいります。平成 28 年 10 月に市民参画により策定した「深沢地域整備事業の修正土地利用計画(案)」では、行政施設と公園を、泣塔周辺に集約し、一体的な利活用を可能にしました。この集約した「公園・行政施設」としている箇所には、新たに区画整理事業で設置する公園や現在の多目的スポーツ広場での機能を導入することとしています。（深沢地域整備課）

【次ページあり】

【土地の半分を占めるJR本体の開発計画との関連はどうなるのか】

深沢地域整備事業は、土地区画整理事業でのまちづくりを想定しており、JRは、深沢地区土地区画整理事業予定地31.1haのうち、約17haを所有しています。土地区画整理事業は、土地の整形化や利用増進を図るとともに、道路や公園などを整備・改善する総合的なまちづくりとなります。そのため、区域内の土地を少しずつ提供(減歩)していただき、公共用地としたり、売却して事業の費用に充てる(保留地)こととなります。JRの土地がどこになるかはまだ決まっていますが、修正土地利用計画(案)の商業施設、都市型住宅等、業務施設、沿道商業・業務施設・住宅用地のいずれかになることが想定され、場合によっては保留地と一緒にすることも考えられます。そのため、JRにも大規模地権者としてまちづくり全般で協力してもらいたいと考えています。(深沢地域整備課)

【JRはどのような核テナントを持ってくるのか】

JRとテナント等の導入施設について、話はしておりませんが、「修正土地利用計画(案)」に記載されている土地利用の方針やまちづくりのコンセプトに合った施設等をお願いしたいと考えています。(深沢地域整備課)

【住宅配置計画等将来人口はどのくらいか】

計画人口については、将来のまちづくりを想定した中で定めるものですが、今後、将来の人口推計や、湘南深沢駅前の住宅街区の都市型住宅と戸建て住宅の比率なども考慮しながら、都市計画決定に係る関係機関協議を進める中で確定していきます。

なお、平成22年9月に策定した土地利用計画(案)では、計画人口を3,100人としていました。(深沢地域整備課)

【富士塚小の児童増加見込みはどのくらいか】

計画人口を3,000人程度とした場合、小学生の就学人数は、仮に鎌倉市全域でみた年齢分布に当てはめた場合、小学生は180人程度増加するという試算になります。(深沢地域整備課)

添付資料

深沢地域整備事業の修正土地利用計画(案)
土地区画整理事業について
深沢地域整備事業の流れ

深沢地域整備事業の修正土地利用計画（案）

平成 28 年 10 月

鎌倉市

■はじめに

深沢地域整備事業（以下「本事業」という。）は、平成 22 年 9 月に策定した土地利用計画（案）をもとにまちづくりを進めてきましたが、計画策定から既に 5 年以上経過し社会情勢が大きく変化していることや、より広く市民意見を反映して欲しいといった意見を踏まえ、土地利用計画（案）の修正を行うこととしました。

これを受け、市民の皆様の参加を得て、ワークショップ形式による「深沢地域整備事業のまちづくり意見交換会」を開催し、市民意見の集約を図るとともに、民間事業者、学識経験者ヒアリング、庁内調整等を行い、土地利用のゾーニングの修正を進めてきました。

また、本事業のまちづくりのテーマとしている『ウェルネス』や、土地利用のコンセプトとしている『健康生活拠点 深沢』が分かりにくいといった意見もいただいたことから、これらまちづくりのテーマ等について、市民の皆様の意見なども踏まえ分かり易く整理し直し、この修正土地利用計画（素案）として取りまとめました。

■まちづくりの理念

平成 24 年 3 月に鎌倉市が公表した「鎌倉市将来人口推計調査」では、他の都市と同様、本市も今後人口が減少し、ますます少子高齢社会が進展することを予想しています。

また、地域のコミュニティに目を向けてみると、人々の生活も多様化し、人と地域とのつながりの希薄化により地域全体の活力も低下する傾向にあり、その傾向は今後もますます強くなっていくものと考えられます。

深沢のまちづくりでは、単に、他の都市にある施設より大規模な施設をつくるという視点ではなく、子どもから高齢者、住民や来訪者、働く人など、さらにはこれらの方々と行政が共に関わり合う良質な生活文化とコミュニティを実現すること、また、住宅、商業施設、オフィスといった単独の利用（シングルユース）ではなく、それぞれの施設を複合的に利用（ミクストユース）することにより、人もまちも共に健康で、持続可能なまちをつくり、『地域で愛され続けるまち』の構築をめざしていきます。

この深沢地区において、『鎌倉に住んで良かった。これからも鎌倉で暮らしたい。』と感じる住民が増え、まちへの誇り・愛着（シビックプライド）が醸成される、そんな新しい鎌倉の未来を創造するまちづくりを、公民が一体となって実現したいと考えています。



街区内を通るみちのイメージ

※パースはイメージであり、確定したものではありません

■まちづくりのテーマ『ウェルネス』の掘り下げ

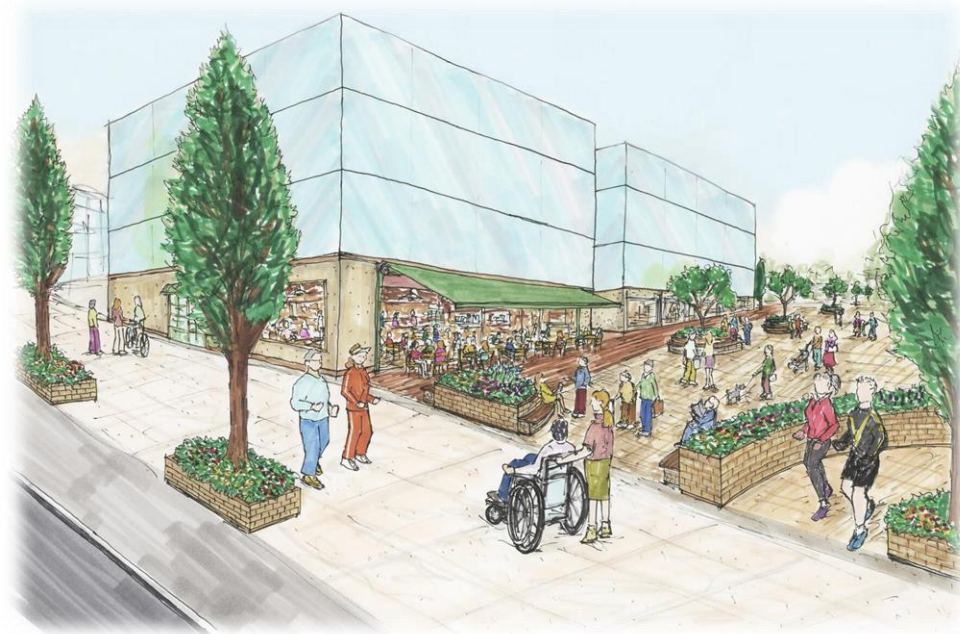
深沢地区のまちづくりは、平成16年に市民の皆様の参加のもとまとめた「深沢地域の新しいまちづくり基本計画」におけるまちづくりのテーマ『ウェルネス』（「人・都市・社会にとって非常に好ましい総合的な健康社会」）、平成22年9月に策定した土地利用計画（案）における土地利用のコンセプト『健康生活拠点 深沢』（市民をはじめ、そこで暮らし、働き、学び、訪れる人たちが健康で快適な生活をおくるための拠点）などの考え方をもとにこれまで進めてきました。

“まちづくりはひとづくり”と言われます。これらのまちづくりのテーマや土地利用のコンセプトと、前述の「まちづくりの理念」から、ウェルネス*の概念を「健康な心身を維持・発展させる生活行動」とし、人とまちがこの概念を共有・共生することにより、『地域で愛され続けるまち』、『鎌倉に住んで良かった。これからも鎌倉で暮らしたい。』と感じるまちの実現が可能となるという考えのもと、まちのコンセプトを明確化しました。

■まちのコンセプト

人もまちも、年齢を重ねます（エイジング）。そのエイジングをマイナスと考えるのではなく、その時代、時代にあった健康でいきいきとしたライフスタイルを構築することや、まちも文化や歴史を育むことにより、人もまちも共に健康でいられる、持続可能なまちになると考えました。

そのため、平成27年度に開催した「深沢地域整備事業のまちづくり意見交換会」などでの取りまとめ結果をもとに、次の「ヘルシー（健康維持・増進）」、「ナチュラル（自然・歴史）」、「メッセージ（魅力発信）」、「セーフ（安全・安心）」、「ユニバーサルデザイン（誰にでも快適なデザイン）」、「コミュニティ（交流・出会いの場）」、「アクティブ（暮らし方・働き方・楽しみ方）」の7つの構成コンセプトを導き出し、これらの共有・共生はもちろんのこと、7つの構成コンセプトからにじみ出す『場（スクエア）』として、この深沢地区のまちづくりがあると考え、新しいまちのコンセプトを、『人とまちのヘルシーエイジング* 鎌倉深沢ウェルネススクエア』としました。



まちかど広場のイメージ

*パースはイメージであり、確定したものではありません



* ウェルネス：健康な心身を維持・発展させる生活行動
 ウェルネスサイクル：健康になる、維持する、増進するサイクルを定義
 ヘルシーエイジング：人は年齢を重ねることをマイナスと捉えるのではなく、その時代、時代に健康的でいきいきとしたライフスタイルを築くことでプラスにし、まちも経年劣化するのではなく、時の経過と共に文化や深みや味わいが育つこと
 ユニバーサルデザイン：すべての人々に対し、その年齢や能力の違いに関わらず、可能な限り最大限に使いやすい製品や建物などをデザインすること

■土地利用の方針

まちのコンセプトである『人とまちのヘルシーエイジング 鎌倉深沢ウェルネススクエア』を踏まえ、施設別の土地利用の方針を示します。

行政施設の方針（行政施設） <アクティブ / コミュニティ / ナチュラル / セーフ>

- 総合体育館の立地を図り「健康な心身を維持・発展させる生活活動」といったウェルネスに資するとともに、その他の公共公益施設（公園等）と連携することにより、賑わいや交流の創出を図ります。
- 消防本部の立地を図り、総合体育館、公園等の公共公益施設と連携することにより、防災機能の拠点化を図ります。
- 賑わいや交流の創出、防災機能の拠点化により、鎌倉駅周辺地区、大船駅周辺地区に並び、第三の拠点の形成をめざします。

住宅系土地利用の方針（住宅、都市型住宅等） <コミュニティ>

- 子ども、子育て世代から高齢者まで幅広い年齢層や多様化するライフスタイル、さらには、ウェルネスサイクルに対応するため、都市型住宅や戸建住宅等、多様な住宅の導入を図ります。
- 鎌倉市の将来人口展望などを考慮し、適切な計画人口を配置します。
- 地区西側の既存権利者の住宅は、従前の機能や権利者の意向を踏まえ配置します。

業務系土地利用の方針（業務施設） <ヘルシー / コミュニティ / メッセージ>

- ウェルネスサイクルの充実を図るため、例えば、医療、福祉、介護、子育て、健康増進機能などを導入し、公共公益施設との連携を図ります。
- 地域や行政と様々な分野で連携・協力し、鎌倉市および深沢地域の活性化や課題解決に資する企業の誘導を図ります。
- 事業所等を営む権利者については、従前の機能や権利者の意向を踏まえ配置します。

商業系土地利用の方針（商業施設） <コミュニティ / メッセージ / セーフ>

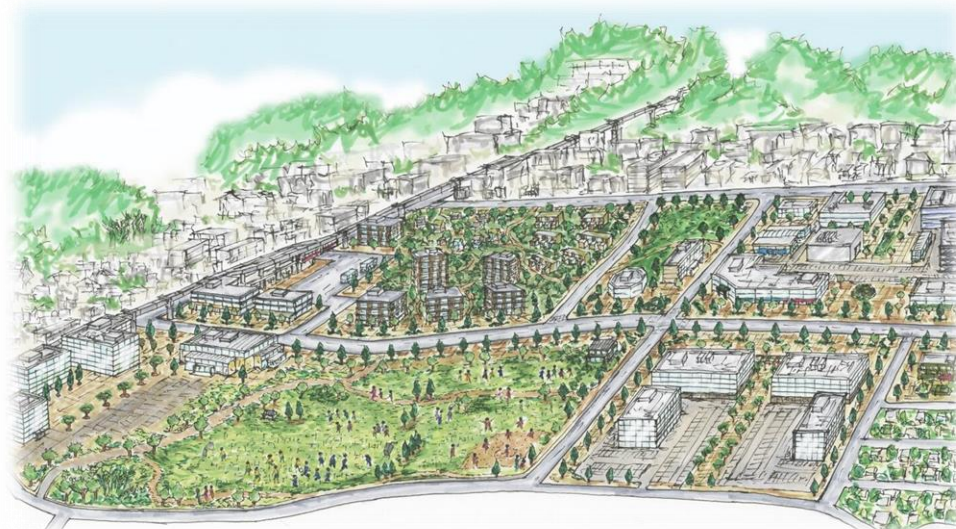
- シンボル道路等に面する沿道商業・業務施設との連携や鎌倉の特性に配慮した、質の高い商業施設の導入を図ります。
- 新しく立地する商業施設と地域の商店会との連携・共生により、賑わいや交流を創出する機能の充実を図ります。

工業系土地利用の方針（工場・市場施設） <コミュニティ>

- 工場や市場を営んでいる権利者については、従前の機能や権利者の意向を踏まえ配置します。

沿道系土地利用の方針（沿道商業・業務施設、沿道商業・業務施設・住宅） <コミュニティ / メッセージ>

- シンボル道路沿道の商業・業務施設とシンボル道路のセットバックにより、魅力的な歩行者空間の確保や賑わいの創出を図ります。
- 湘南深沢駅駅前広場と隣接する施設は、通勤、通学者等の生活サービスに資する機能の導入を図ります。
- 市道常盤梶原線沿道の施設は、商業、鎌倉青果市場と連携し、鎌倉の魅力を発信する機能の導入を図ります。



鳥瞰イメージ(北東より)

※パースはイメージであり、確定したものではありません

公園・緑地・調整池／ウォーキングコース・散策路・眺望ポイントの方針

【公園・緑地】 <アクティブ / コミュニティ / ナチュラル / セーフ>

- 総合体育館や公園等を一体化することで、スポーツを中心とした賑わいや交流の創出を図るとともに、民間事業者との多様な施策の連携により、ウェルネスサイクルにおける健康の維持・増進を図ります。
- 隣接する消防本部等と連携し、災害時の避難場所としての利用を可能にすることで防災力の向上を図ります。
- 市指定文化財「宝きょう印塔」（泣塔）は、隣接する公園との連携や、鎌倉の歴史と自然とのふれあいの創出を図ります。
- 大街区を中心にポケットパーク的な緑地空間（まちかど広場）等を配置し、憩いの場や交流の創出を図ります。



公園・行政施設のイメージ

【調整池】

- 一定規模の調整池を配置し、大雨や台風時の冠水等への対応を図ります。また、平常時は、隣接する施設との連携等に考慮した有効利用を図ります。

【ウォーキングコース・散策路・眺望ポイント】

- 地区内を周遊するウォーキングコースや、深沢の歴史資産を活用した散策路等の整備を図ります。
- 周辺の自然資産に考慮し、公共公益施設や民間施設、泣塔等からの眺望に配慮した整備を図ります。

シンボル道路の方針

- 地区を東西に結び、骨格となる道路として、また、ピーク時に発生・集中する交通を円滑に処理する地区内の主要な道路としての整備を図ります。
- 歩道の緑化、沿道のセットバック等により快適な歩行空間を確保し、歩行道と沿道建物が一体となった良質なまち並み景観の形成を図ります。また、良質なまち並み空間を活用し、賑わいや交流の創出を図ります。
- 藤沢市村岡地区のまちづくりと連携を図ります。

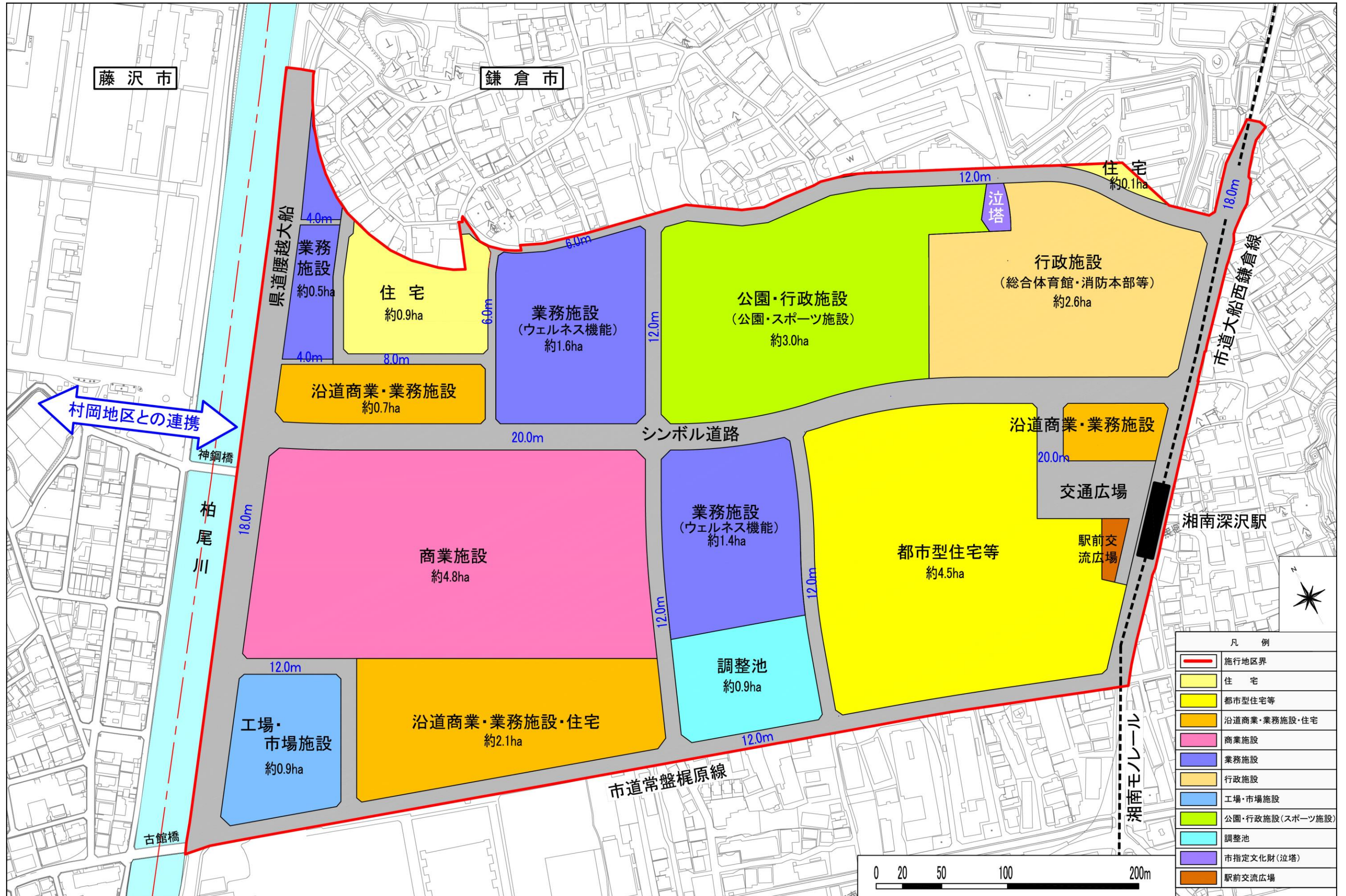
安全・安心の方針

- 防災機能の拠点化、防災力の向上を図るため、消防本部、総合体育館、公園等を中心に、地区内の商業施設等とも連携した総合的な防災体制の構築を図ります。
- 地域コミュニティづくりを大切に、地域が主体となり防災訓練等に積極的に取り組むことにより、防災力・防犯力の向上・強化を図ります。

■土地利用とゾーニング



修正土地利用計画(案)



※ 面積・道路幅員は確定したものではありません。今後の関係機関協議等により変更の可能性があります。

村岡地区との連携：藤沢市・鎌倉市で策定した「村岡・深沢地区全体整備構想(案)」(平成19年度)をもとに、藤沢市村岡地区・鎌倉市深沢地区一体のまちづくりをめざします。

土地区画整理事業について

土地区画整理事業は、土地の区画を整え（整形化）、土地の利用増進を図るとともに、道路や公園などを整備・改善する総合的なまちづくり事業です。



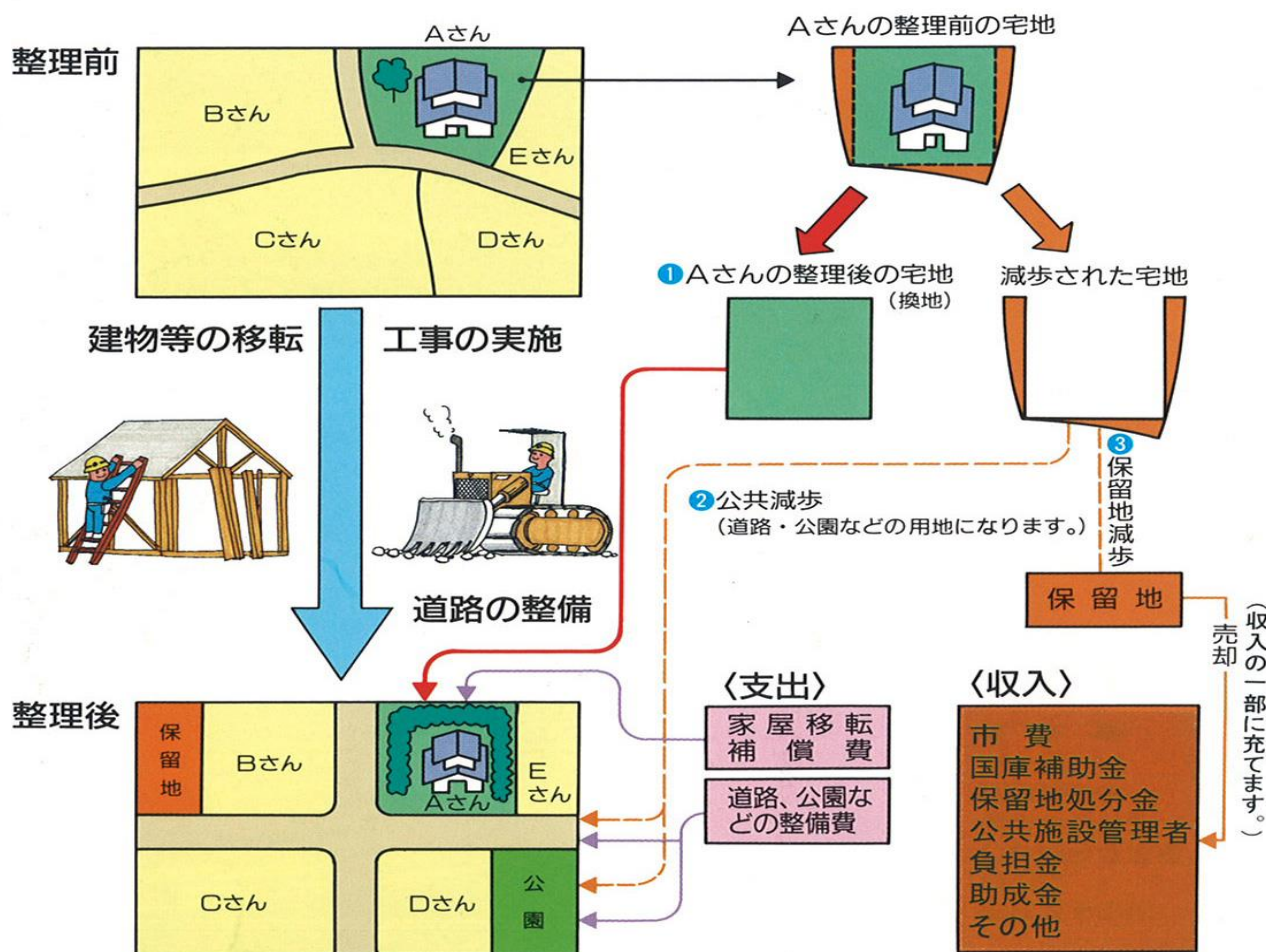
土地区画整理事業は、事業を行う区域に権利をお持ちの皆様から、個々の権利に応じて少しずつ土地を提供していただきます。

これにより土地が減少することを『**減歩（げんぶ）**』といいます。

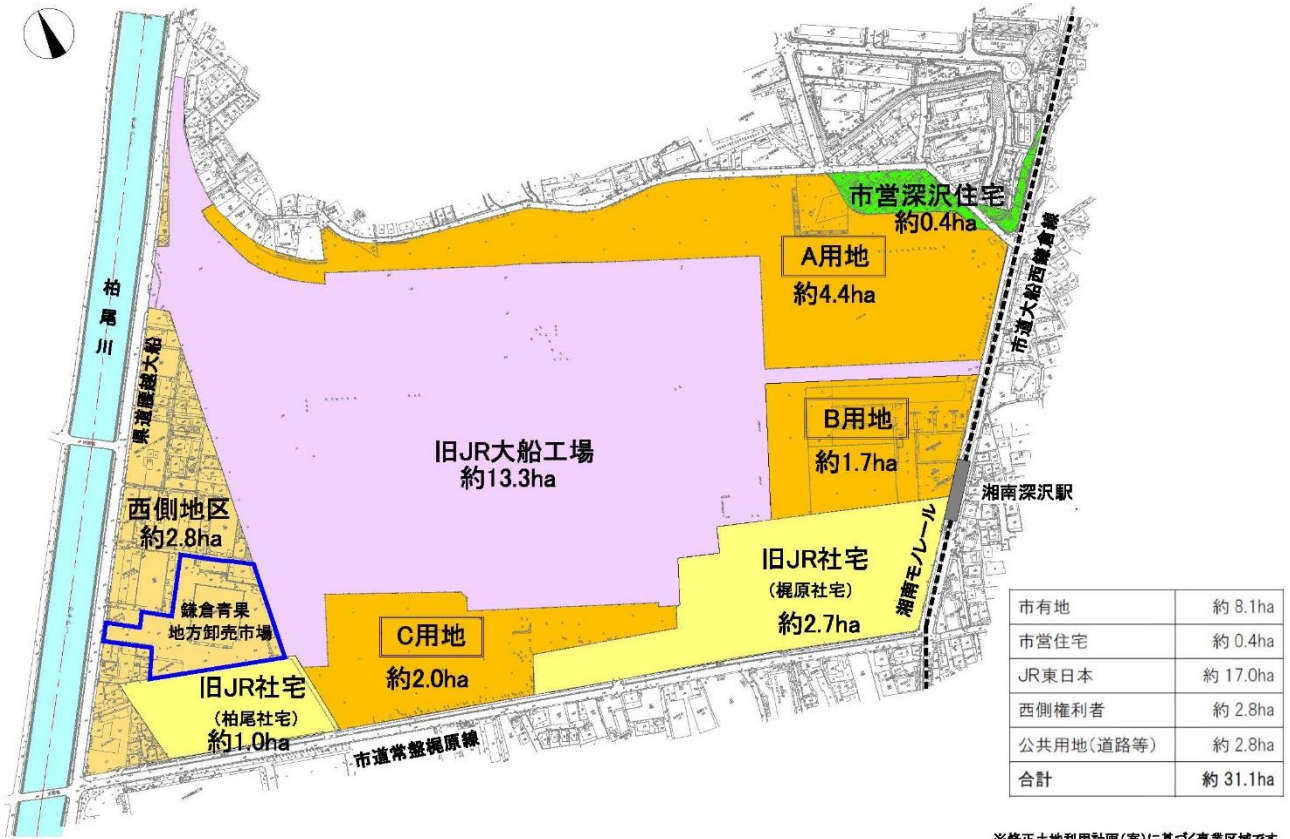
『減歩』には、

◇道路や公園などの公共用地に充てる『**公共減歩**』

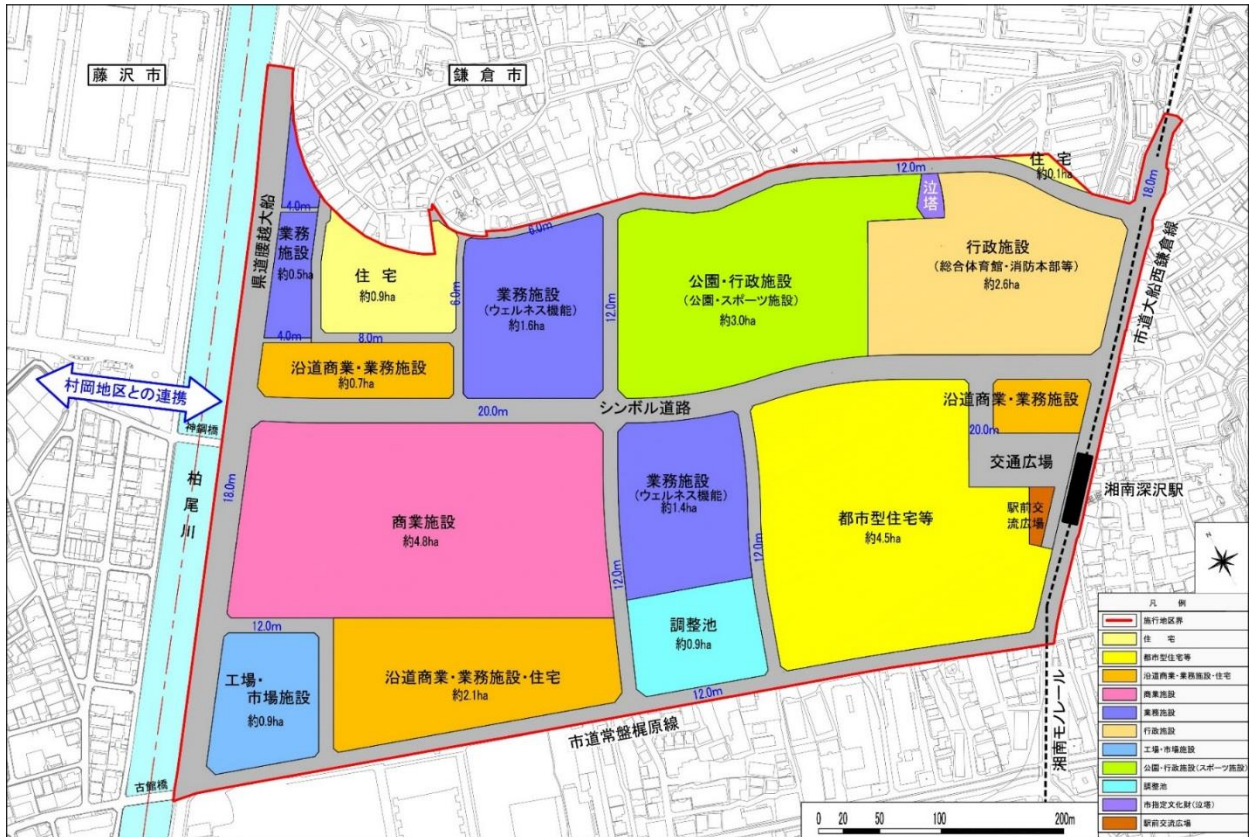
◇その一部を売却して整備にかかる費用など事業費の一部に充てる『**保留地減歩**』 があります。



土地区画整理事業の特徴



※修正土地利用計画(案)に基づく事業区域です。



深沢地域整備事業の流れ

① 計画・協議段階

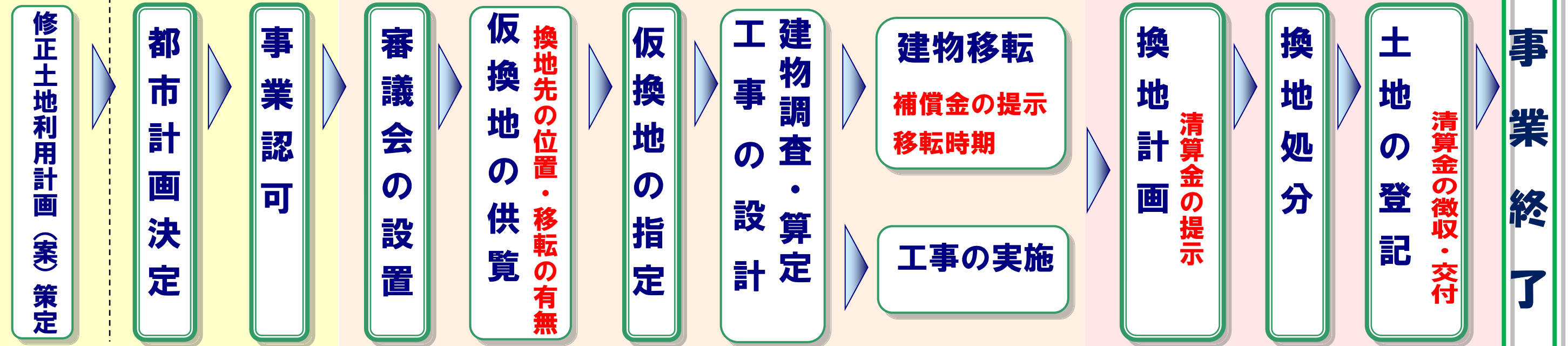
② 設計段階

③ 実施段階

④ 収束段階

平成 28 年 10 月 平成 31 年度 平成 32 年度 平成 33 年度

平成 34 年度～ 工事期間約 10 年



平成 22 年 9 月に深沢地区事業推進専門委員会において**土地利用計画(案)**を策定しましたが、陳情の採択を受け、平成 28 年 10 月に**修正土地利用計画(案)**を策定しました。現在、都市計画決定に向けた関係機関協議等を進めています。

この**都市計画決定**を行うことにより、一定の制限（土地利用、建築等）をかけます。

土地区画整理事業を行うにあたり**事業計画(事業を行う区域・設計の概要・事業期間・資金計画)**をまとめ、知事等の同意を得ることを**事業認可(地区の平均減歩率が確定します)**といい、これにより、正式に土地区画整理事業が開始されます。

皆さんの中から選挙により代表者を選出し、学識経験者を加えて**審議会**を設置します。

審議会では、施行者と一緒に事業の様々な事項について検討します。

仮換地の供覧（個別に説明します）で皆さんがお持ちの土地の、**換地の位置**（新しい土地の位置）、**個々の減歩率**と**移転の有無**が分かります。



整理前

工事を行うため、権利者に土地の使用に関する通知を行うことを**仮換地の指定**といいます。

工事の進捗に合わせ、**移転時期**が決まり、**補償金の提示**及び支払い後、**建物移転**となります。

建物移転後、道路や宅地の整備のため、**工事を実施**します。

★この道路や宅地の整備が済んだところから、順次、**建物の建築**が可能となります。

★建築可能となる時期は工事の進捗状況によります。



工事中

工事終了後、最終的な換地（位置・面積等）を確定することを**換地計画**といい、**清算金の提示**が行なわれます。

皆さんに、各々の土地の換地計画の内容を通知する手続きを**換地処分**といいます。

土地の登記は、施行者が権利者に代わって行ない、この登記により、正式に従前地から新しい位置の土地に代わります。

登記完了後、**清算金の徴収・交付**が始まります。



整理後

事業終了

<梶原町内会・石井会長>

新駅設置について、平成31年度中の都市計画決定を目指すと聞いているが早期実現を求める。地元では新駅はできるものだと思っている。深沢村役場ができてから来年で100年、次の100年を担う市民と鎌倉のあるべき姿を考えつつ、新駅のある深沢のまちづくりの実現を図ってほしい。

<松尾市長>

国・県・藤沢市・JRと協議中である。周辺整備にも費用がかかり、150億円の費用負担がポイントになる。市の費用負担をなるべく軽くしつつ、実現を図りたい。

<常盤町内会・矢澤会長>

JR跡地は土地の半分以上をJRが所有しているが、JRの考えが見えない。

<松尾市長>

JRは、地元の皆さんの声を取り上げつつ、鎌倉市が進める深沢の区画整理・まちづくりの方針に協力をしてくれるという立ち位置である。

市所有の土地には、本庁舎、消防本部、体育館、グラウンド、公園を整備し、その他、住宅、企業誘致、商業施設など土地の活用を区画別に分けている。

特に、企業誘致は大きなポイントで、近隣には武田薬品、中外製薬、東レなど、日本・世界を牽引する医療やバイオの成長産業があり、その関連企業も付随してくる。「ウェルネス」という深沢のまちづくりのテーマに沿った、市民の健康に寄与するまちづくりをするとともに、そのテーマに寄与する企業を誘致し税収増につなげたい。

<梶原町内会・石井会長>

土地計画決定の中に新駅は含まれるのか。

<松尾市長>

新駅が設置される前提であるが、新駅が設置されなくても深沢のまちづくりは遅らせない。

平成 30 年度ふれあい地域懇談会（第 3 部） 回答票

番 号	深沢－H30－2
テ ー マ	新ごみ焼却場建設について
内 容 詳 細	<ul style="list-style-type: none"> ・ ごみ焼却場の建設計画はどうなっているのか ・ 今泉焼却場で資源ごみの処理の現状について ・ 逗子市とのごみ協定の話が出てきて、鎌倉では焼却場は作らず、パーター方式で他のごみ処理をすればよいという話になっているようだが、焼却場は作らなくてもよいのか
担 当 部 課	環境部 環境施設課

議題に対する回答等

【「建設計画はどうなっているか」及び「逗子市とのごみ協定の話が出てきて、鎌倉には焼却場は作らないという話もあるがどうなのか」について】

新ごみ焼却施設の建設候補地は、平成 27 年 4 月に「山崎下水道終末処理場未活用地」とすることを公表し、その後、平成 27 年 10 月近隣自治町内会で構成する「新ごみ焼却施設建設に反対する会」が結成されました。これまでの話し合いで、周辺住民の皆様から「2つの迷惑施設を受け入れることは容認できないので、白紙撤回」を強く要望され、話し合いが平行線となっています。

平成29年10月の「反対する住民の会」との話し合いの中で、市長から、「まず、山崎浄化センターの臭気等課題について、新ごみ焼却施設建設とは別に、早急に対応していくことを説明した上で、新ごみ焼却施設の建設に関しては、負担の公平性という非常に切実な意見をいただいていることを十分に認識し、新ごみ焼却施設建設を基本とするが、ごみ処理は広域連携等さまざまな手法が考えられることから、もう少し協議の枠を広げていきたい。」旨を説明しました。

これを踏まえて、平成29年11月に鎌倉市・逗子市・葉山町ごみ処理広域化検討協議会において、「鎌倉市の可燃ごみを逗子市の施設で焼却することを視野に入れた、広域連携の可能性について検討いただきたい。」旨を要請し、了承され、検討を進めてきました。当初結論は、平成29年度中を目処にしておりましたが、今後のごみ処理体制という重要な判断をするための判断材料が全て得られていないため、引き続き検討することになりました。

【次ページあり】

平成 30 年3月に 10 回目の「反対する住民の会」と話し合いを行い、市長から「可燃ごみの広域連携の検討について、判断するための熟度に達していないため結論を出せなかった」旨を説明するとともに、「改善の約束をしている山崎浄化センターの臭気対策、上部利用の検討及び市が取得したJR引き込み線を活用した周辺まちづくりの推進について、新ごみ焼却施設建設とは別に協議検討を進めていきたい」旨を説明し、現在、上部利用等について検討している状況です。

本市の可燃ごみの焼却処理については、新ごみ焼却施設の必要性や可燃ごみの広域連携の可能性等について、本市の安定的なごみ処理体制を構築することを前提に評価を行い、平成 30 年度末までには市の方針を明確にしていきたいと考えています。

【今泉焼却場の現状について】

今泉クリーンセンターは平成 27 年3月に焼却を停止し、平成 28 年度に焼却炉等の撤去が完了し、現在、平成 30 年度中の煙突解体を目指して工事を実施しています。

今泉クリーンセンターについては、焼却停止後もごみ処理施設として活用することを地元住民の皆さんに説明しており、現在、事業系ごみをピットに一時貯留し、名越クリーンセンターに搬送するための中継施設として活用しています。

今後の活用としては、家庭系生ごみの減容化施設建設を検討しており、具体的な施設整備に当たって、専門的な立場から審議会での協議を行い、意見を聴くとともに、地元住民の皆さんに十分な説明を行い、理解と協力を得て進めていきたいと考えています。

添付資料

<山崎西町内会・檜山会長>

町内会としては一貫して山崎に建設はできないと伝えている。市も代替案を考えていると思うが、ここにいる皆さんに現在の取り組みの状況について教えていただきたい。

<松尾市長>

山崎浄化センターに焼却施設を造ると発表したが、山崎側は白紙撤回のみを希望している。そこで、検討の幅を広げるべく、広域ごみ処理（鎌倉市・逗子市・葉山町）で可能なことを検討している。平成 29 年度内を目指したが結論が出ず、30 年度に延期して検討中である。

山崎浄化センターを作る際、スポーツ施設を造る約束をしたが未履行になっている。浄化センター上部はテニス、フットサルなどに利用できるのも、焼却施設の話とは別に進めさせていただきたい。

J R引き込み線用地は購入済みで、鎌倉武道館前の渋滞解消と歩行者の安全確保に活用するため、地元と協議中である。今泉クリーンセンターは焼却停止後も生ごみ処理施設として活用したく、審議会でも協議を行い、地元住民の皆さんに説明し理解と協力を得ていきたい。

<山崎西町内会・檜山会長>

浄化センター上部のスポーツ施設は約束してから 25 年近く経っている。先般、山崎浄化センター連絡協議会の席上で、スポーツ課長からごみ焼却場の話とは切り離して行いたいと説明があった。一方、山崎の子ども広場がなくなり、子どもたちや商店街の行事をやる場所がなくなった。浄化センター内の広場を人工芝にして、地元が親しめる施設を造り、浄化センターとの接点を良くしてほしい。

平成 30 年度ふれあい地域懇談会（第 3 部） 回答票

番 号	深沢－H30－3
テ ー マ	野村研究所跡地利用（橋の修繕等も含む）について
内 容 詳 細	野村研究所跡地に企業を誘致するという話になっているが、橋桁の修理などから利用が制限されている。竹林の整備やハイキングコースの整備、グラウンドの利用等は進めていただきたい。
担 当 部 課	行政経営部 公的不動産活用課

議題に対する回答等

野村総合研究所跡地は、平成 30 年 2 月 23 日に発生した野村橋のコンクリート剥落により、自動車の通行止め規制を行っていますが、更なる劣化を防ぐとともに、安全を確保し、自動車の利用による市民開放の再開を目指すため、橋梁調査や補修設計の準備を進めているところです。

また、当該地は、平成 30 年 3 月に策定した鎌倉市公的不動産利活用推進方針において、「自然環境を生かした利活用（市民への開放を含む）と企業誘致」という利活用の基本方針を定めたところであり、今後、この基本方針に則り、パブリックマインド*を持った企業の誘致に向けて、具体的な事業方法、市民開放を行うことなどの利活用条件の検討や、サウンディング型市場調査の実施等により、公募に向けた整理を行ってまいります。

*パブリックマインド

本市とともにまちづくりに取り組み、自身の利益の追求だけにとらわれず、鎌倉のまちや地域の価値を高めていくといった理念

添付資料

<梶原山町内会・加藤会長>

橋の修理を早く行い、歩行者だけでも通れるようにしてもらいたい。長期的視点での跡地利用については、町内でも意見が分かれている。

<行政経営部・齋藤部長>

橋の調査については、6月の議会で認められたので、調査を始める。

調査結果により、安全性が確認できたら、供用できる。ハイキング道は使用可能である。

<梶原山町内会・加藤会長>

橋の下を通れるようにしてもらいたい。

<行政経営部・齋藤部長>

調査後、安全性が確認できるまでは、橋の下も通行して良いとは言えない。保育園脇の入口から入っていただくしかない。調査結果が出たらお伝えする。

《後日対応 行政経営部公的不動産活用課》

現在、調査業務の発注準備を進めており、年度内に調査結果を得られる予定です。

<常盤町内会・矢澤会長>

ハイキングコース内の整備を市民団体が行っているので車が入れないと厳しい。一日でも早く開放してほしい。市民も協力するが竹林の保護・保全を市でもしてほしい。

<梶原山町内会・加藤会長>

駆除後のたけのこを県有地のものは持ち帰って良く、市有地はダメというのはいかがなものか。

<行政経営部・齋藤部長>

竹林の管理を市民団体に依頼する協定を結び、管理の一環としてたけのこを駆除したら、自由に持ち帰られると思う。野村跡地については、暫定的使用方法になっているので、将来的に望ましい形にしたい。

<松尾市長>

駆除した方が持ち帰れないのはおかしな話なので、持ち帰ることができるようすぐに対応する。

《後日対応 行政経営部公的不動産活用課》

来春以降、たけのこを地域の方が持ち帰ることができる方法について、検討しています。

<大峯自治会 宇佐美氏>

竹林は、管理しないとすぐダメになる。無償で管理しているのだから、持ち帰るのは当然である。

<常盤町内会・矢澤会長>

周辺自治会は竹林管理に協力していきたい。たけのこの持ち帰りが目的ではなく、あくまで駆除であり、竹林を整備しているのだから市は善処してほしい。

平成 30 年度ふれあい地域懇談会（第 3 部） 回答票

番 号	深沢－H30－4
テ ー マ	市営住宅の統合について
内 容 詳 細	市営住宅の統合は必要だが、単純に戸数をカバーするのではなく、今後の町内会活動を持続させるために、若者も一緒に住む市営住宅づくりを目指してもらいたい
担 当 部 課	都市整備部 住宅課

議題に対する回答等	
<p>平成 30 年3月に策定した「鎌倉市営住宅集約化基本計画」では、安心して住み続けられる良質で低廉な住宅の供給を目的として、集約化を行うこととしています。その集約にあたっては、既存入居者の世帯構成に考慮することとなりますが、市営住宅の応募状況等も踏まえ多世代のコミュニティの形成に配慮しながら進めてまいりたいと考えています。</p>	
添付資料	

<笛田町内会・田島会長>

し尿処理場を建設するとき、施設の役割を停止・変更するときには自治町内会に打診することとしていたにも関わらず、今回急にし尿処理場跡地に市営住宅を建てることを広報で知ったので、町内会での説明会をお願いした。

市営住宅建設は賛成であるが、優先入居となる世帯はほとんどが高齢者である。災害時などの課題が多いため、コミュニティーを形成するに当たっては、入居者の年齢構成を考えてもらいたい。

また、し尿処理場やクリーンセンターなどを建設する際の地元との約束事が履行されていない。クリーンセンター建設時には柏尾川の増水時のために貯水池を作るという話があったが、結果的には貯水池を作らずに公園にして、新川などの治水改良に変更された。

約束したことがきちんと履行されていないことに不安があって、市営住宅建設時にそのようなことがないように、福祉のことなど周りのことも考えてもらって進めてもらいたい。

<松尾市長>

事前説明がない、約束したことが履行されていないなどについてはお詫びしたい。信頼関係を築いていくためにも丁寧に対応していきたい。

市営住宅については、世代バランスを考えて、進めたい。

<西寺分自治会・矢沢会長>

1年前にこの話があった時に「かまくら住宅ニュース」でお知らせするということがあったが、1回発行したきり何も無い。

新しいところは世代バランスを考えてと言うが、我々移る住民は高齢者ばかりで、144戸あるうち、114戸しか入居していない。転居時期についても時期が分からず不安が募っている。共益費も入居していない住居の分を入居者で分担している。抽選で入居者を決めると思うが、本当に世代バランスを考えることができるのか。

<松尾市長>

不安なお気持ちにさせて申し訳ないが1年前から特に進展がない状況である。進展があったら逐次、情報提供に努めたい。

入居者に関しては、抽選で全てを決めるということではなく、若い人たちを優先するなど方針を決めることは可能である。世代バランスを考えるという要望に沿うことは可能と考える。

<都市整備部・樋田部長>

入居条件があり、その上での抽選となるので、今年度から世帯枠を設け、ファミリー層や子育て世代に積極的に入居していただくということを進めていきたい。78%が65歳以上ではあるが、若い世代にも入っていただきたく今年度から取り組んでいく。「かまくら住宅ニュース」は今年1月に配布したが、改めて配布させていただく。

<西寺分自治会・矢沢会長>

市営深沢住宅の1、2号棟は平成50年まで使えるはずだが、62戸のうち8戸入居できない理由は何か。

<都市整備部・樋田部長>

募集はしているが、入居を辞退する人が出ている。老朽化してるところもあると思うので、8世帯がどのような状況なのか確認して報告する。

《後日対応 都市整備部住宅課》

市営住宅の募集では、応募して当選しても住宅によって辞退する傾向がありますが、深沢住宅では辞退はありませんでした。深沢住宅では空いている8戸のうち5戸については、入居者の死亡等により残置物があったもので、そのうち4戸について平成29年度に整理を行いました。残り3戸については、平成28年度以降退去した住戸であり、いずれも募集が行えなかったものです。今年度は、2戸の募集を行っており、今後も、各団地との募集戸数のバランスを考慮しながら、順次修繕し、募集を行っていく予定です。なお、自治会長には、状況を説明していません。

平成 30 年度ふれあい地域懇談会（第 3 部） 回答票

番 号	深沢－H30－5
テ ー マ	防災無線の振り込め詐欺防止放送の利用について
内 容 詳 細	総合防災課の管轄となっているが、振り込め詐欺防止の放送を随時流していただきたい。 地域住民の生命財産の安全の確保とは相容れないとしているため放送はしていないのが現状。（市民安全課と同じ部であるが、縦割り主義の弊害あるのでは）
担 当 部 課	防災安全部 総合防災課

議題に対する回答等

平成 26 年度から振り込め詐欺の注意喚起を防災行政無線で放送しています。これは、警察機関が知り得る情報であり、その内容について市で判断できるものではないため、その情報発信元である警察機関の依頼により防災行政無線を放送しているものです。

振り込め詐欺の注意喚起につきましては、今後も引き続き、警察機関から依頼がありましたら、速やかに協力してまいります。

なお、市では防災・安全情報メールにより、不審者情報や振り込め詐欺情報などの注意喚起を行っています。これは、警察機関等からの情報を皆様に配信しているものです。防災行政無線は屋外でなければ聞こえないなどの諸条件に左右されますが、防災・安全情報メールのメリットは、市が発信する情報提供内容を文章によりご確認いただくことが可能であることです。配信メールを受け取るためには、予めメール登録作業を行うことが必要となりますが、ご登録いただくとともに、お知り合いの方々にも、お進めしていただければ幸いです。

添付資料

<常盤町内会・矢澤会長>

防災行政無線で振り込め詐欺防止の放送を流していただきたい。

<防災安全部・柿崎部長>

鎌倉は大変安全な町だが、振り込め詐欺については非常に増えている。以前は、警察の方が来て、月に一度は流していた。現在は、防災・安全情報メールで注意喚起を行っているので、是非、配信メールを受け取れるようにしてほしい。

<山崎西町内会・檜山会長>

防災行政無線での注意喚起は大変効果があると思っている。警察から市に依頼があるとのことなので、私の方から警察に呼び掛けしていくということにすればいいか。

<防災安全部・柿崎部長>

警察からの依頼があれば放送する可能性はある。

<山崎西町内会・檜山会長>

では、警察に依頼する。

平成 30 年度ふれあい地域懇談会（第 3 部） 回答票

番 号	深沢－H30－6
テ ー マ	鎌倉市支所機能の集約について
内 容 詳 細	鎌倉市では支所機能を集約し、地区連合町内会、地区社協、地区社協の事務局をそれぞれの団体に任せるとの方針が打ち出されました。 それは当然のことだと思うが、今後は各地区平等に実施してもらいたい。（一部の地区が残ることはないようにしていただきたい）
担 当 部 課	行政経営部 行政経営課

議題に対する回答等	
<p>各地域の支所においては、証明書の発行等を行う窓口業務や、市民相談業務及び地域支援業務等を行っていますが、市ではこのうち窓口業務について、平成 31 年度中の集約化を検討しているところです。</p> <p>今後は、各行政センターにおける地域支援のあり方を考えながら、最適な行政サービスを提供してまいります。</p>	
添付資料	

<梶原町内会・石井会長>

昨年の懇談会では、支所機能を集約するとなっていたが廃止とはなっていなかった。突然、平成31年度に支所機能が廃止されるとなっていた。一体誰が決めたのか。

大和のシリウスに行ってきたが大変大規模なもので、深沢では収まり切らない。

<松尾市長>

私が決めたことで、昨年の資料では窓口機能を本庁舎に集約するとしている。まだ積極的に広報などはしておらず、このような場で窓口廃止について自治町内会長の皆さんに伝えている。ご理解をいただき、ご意見を伺いたいと思っている。シリウスは、現庁舎跡地の活用についての参考例である。

<梶原町内会・石井会長>

ある政党のちらしで、大船・深沢支所は残すと書いていたがどういうことか。

<松尾市長>

政党の方が何を根拠に書いたのか、私には分からない。

<梶原町内会・石井会長>

社協や連合の資料作りや会議室の予約など、支所の職員に頼ってきたが、それができなくなるのか。地域支援の人員配置は決まっていないのか。

<松尾市長>

支所に地域支援業務は残すことを考えている。

<山崎町内会・高井会長>

市の職員にお金の管理をしてもらっていたが、それはどうなるのか。

<松尾市長>

そこは支所の窓口機能の廃止とは別の問題で、公金管理のあり方の問題にもなるのでまた別に検討したい。

平成 30 年度ふれあい地域懇談会（第 3 部） 回答票

番 号	深沢－H30－7
テ ー マ	その他
内 容 詳 細	JR 引き込み線の用地利用について、買収は終わっているのか、利用計画の具体策について教えてください。
担 当 部 課	行政経営部 公的不動産活用課

議題に対する回答等	
<p>JR 引込線跡地については、平成 30 年3月2日付けで所有権が本市に移転していますが、当該跡地内には、線路等が残置されているため、現在は、平成 30 年度内の引渡しに向けて、JR 東日本が撤去作業を進めているところです。</p> <p>また、今後の利活用については、地域課題の解決に向け、神奈川県藤沢土木事務所と山崎跨線橋南交差点の道路の目違いの解消に関するスケジュール等の協議を始めたほか、三菱電機株式会社鎌倉製作所周辺道路の拡幅に向けた測量調査の発注準備を進めています。</p> <p>今後、当該跡地の行政利用と市民利用のゾーニング等を整理し、地域住民の声を聴きながら進めてまいりたいと考えています。</p>	
添付資料	

質疑応答なし

【その他のテーマ】

＜深沢地区社会福祉協議会・加藤氏＞

日常での金銭授受など、地区社協では難しいところもあり、支所で補助できないか。

＜松尾市長＞

市として何ができて何ができないのかも含め、ご相談をお受けしたい。具体的なお話は支所長が伺う。

＜打越町内会・山田会長＞

子どもの見守りをしているが、放課後かまくらっ子が始まったことで下校時刻帯に幅ができ、その日の見守りがこれで終了したのか分かりにくくなっている。見守りや放課後かまくらっ子の運用状況についてなど、何らかの形で住民にフィードバックをいただけたらありがたい。

付 録

当日配布資料

- 1 地区別危険箇所マップ
- 2 鎌倉市市政e-モニター登録のご案内
- 3 鎌倉市ふるさと寄附金